（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令　和　８年度　学校自己評価システムシート（埼玉県立幸手桜高等学校）

E35

目指す学校像	夢を語る学校・・・・・・・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・・・・・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校

重点目標	1　基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2　本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3　計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望を実現させる。 4　規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標					年度評価（　２月　１日　現在）		実施日　令和９年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	〔現状〕 現在、全年次で一人一台端末を実施している。タブレットによるデジタル指導と、紙媒体によるアナログ指導を効果的に組み合わせたハイブリッド型指導を推進することで更なる生徒の学力向上に繋げたい。 教員の授業改善への取組は昨年度と比較すると同程度であった。 昨年度は大学入学共通テストの受検者が４人となった。今年度も更なる増加を目指し、大学進学への門戸を広げていきたい。 〔課題〕 ・一人一台端末の導入による、学び直しや一人一人の習熟度にあった個別最適化の学びの展開を実現する。 ・生徒のICT活用能力を高める。 ・授業改善の取り組みをさらに進める。 ・上位層の更なる学力向上への支援と、下位層へのフォローアップを充実させる。 ・各系列・各系統の特色を生かした進路実現を図る。 ・進路が決まると成績が下がり欠点を取ってしまう生徒が出てくる。	○基礎学力の定着と授業改善を推進し、生徒の学力向上を図る。 ○各教員が自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や学力向上のための具体的な授業改善策を明示して取り組む。 ○育成したい資質・能力、スクールポリシー、評価の観点を周知する。 ○ＩＣＴを効果的に活用した授業に取り組む。	①各年次による巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、規律ある学習環境を確保する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業によるきめ細かな学習指導により学力向上を図る。 ③授業公開週間等を活用し、教員同士の研究協議を行うことで授業改善を図る。 ④タブレット端末や、プロジェクタを活用し、生徒の興味や関心を高める授業づくりを推進する。 ⑤一人一台端末の活用により、授業改善及び深い学びへの実現を図る。 ⑥各年次が主体となり朝学習の質を高める。 ⑦全校において、ＩＣＴ教材すらら を活用して朝学習の質を高める。 ⑧長期休業中等において、各教科による進学補講、資格取得に向けた補習を充実する。 ⑨各所がスクールポリシーの実現を図る。 ⑩各教科で評価の観点を明確にし、３観点を適切に評価する。	①②③④⑤⑥⑦⑩学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑥成績優良者は増加したか。 ②⑧成績不振者は減少したか。 ②④⑥⑧生徒が進路実現をしたか。 ④⑤授業改善の取組が推進されたか。 ⑧進学補講や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑨⑩各分掌のシートで振り返りをさせたか。 ⑩学習評価が生徒の学習意欲の向上につながったか。				
2	〔現状〕 学校見学会、学校説明会、入試説明会、塾対象説明会、中学1，2年生対象説明会、幸手市や商工会と連携した活動等を通して本校の取組をアピールしてきた。徐々にではあるが、地域に本校の取組が理解されてきている。 〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、ホームページや公式SNSを使って中学生や保護者、県民に積極的に発信する。 ・学校説明会のより効果的な時期、内容を検討する。 ・目的意識をもって幸手桜を志願する中学生の数を増やす。 ・地域、商工会、大学等との連携を更に深めていく。	○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実を図る。 ○本校を第１志望とする受検生への丁寧な対応と、積極的な生徒募集活動を展開し、本校志願倍率1.00倍を目指す。	①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に中学校訪問や学校説明会等において、学校の特色や系列、進路状況、学校全体での手厚い指導等を強調して説明し、具体的な情報発信を行う。 ③ＨＰやインスタグラム更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系列を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤地域の中学校との情報交換の場を活用し、積極的な生徒募集を進める。 ⑥学校説明会・入試説明会、教育関係者対象説明会等で本校の取組や方針を説明する。	①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②⑥本校志願倍率が1.00倍を超えたか。 ③ＨＰやSNSの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織（年次・分掌・部活動等）で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動（文化祭・市民祭りの参加）ができたか。 ④⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。				
3	〔現状〕 進路指導に関する満足度は高い。高大連携事業への参加者も多い。進路指導・年次団を中心としたキャリア教育が生徒に浸透してきている。今年度も、各年次でオリジナリティ独自も出しながら、進路意識の醸造やインターンシップ等のキャリア教育を充実させ、更なる進学実績、就職実績を伸ばしていきたい。 〔課題〕 ・インターンシップ等の教育活動により、将来の職業観や就業意欲をさらに高める指導の充実を進める。 ・産業社会と人間や相当的な探究の時間、LHR等において進路行事を充実させ、明確な目標設定や資格取得を生徒に促す。	○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。 ○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。 ○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。	①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、３年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリング的面談を繰り返し行い、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。	①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ベクトルをあわせ進路指導を行い、進路実現を果たしたか。				
4	〔現状〕 生徒指導案件は、昨年はネットトラブルや器物破損等が多かった。SNSの使い方、学校設備・備品の扱い方の指導を今後も継続して指導していく必要性がある。 昨年度、平日のスマホ使用時間が2時間以上の者90.1%。休日のスマホ使用時間が7時間以上の者、18.9%という結果であった。事件・事故等に繋がらないよう、携帯安全教室や日々日の指導においても十分な指導をしていく必要がある。 昨年度は1.00倍を超えることができなかったが、前年よりは上昇した。更なる志願倍率の向上に努めたい。 〔課題〕 ・あいさつや時間を守るといった基本的な生活習慣を身につけさせ、社会で求められるモラルや規範意識を育てていきたい。 ・ＳＮＳの正しい使い方の指導を充実させる。 ・スマートフォンの使用時間が長過ぎる。 ・「幸手桜で頑張りたい」という強い気持ちを持つ生徒たちを核にして、学校の教育活動全般の更なる活性化を図る。 ・行事や授業、部活等を通じて、生徒の幸手桜への帰属意識を高めさせる。 ・自転車通学者のヘルメット着用率向上に努める。	○規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着に向けた取組を通じて、生徒の自己管理能力を育み、主体的な学校生活づくりを進める。 ○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。 ○挨拶の励行と、地域連携事業やボランティア活動を通して人間性豊かな生徒を育成する。	①始業式、終業式、ＬＨＲ等を利用して生徒指導部を中心にＳＮＳの使い方や学校施設・設備の扱い方について指導する。 ②基本的生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。特に、ＳＮＳが起因する生徒間トラブルを防止するため、重点的に指導を行う。 ③生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、ＰＴＡと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ④教育相談員、ＳＳＷ、ＳＣを活用し、カウンセリングマインドを重視した生徒指導を充実させる。 ⑤成果や結果については報道機関や県教委公式SNSへの積極的な情報提供を行う。 ⑥部活動で中心的な役割を果たす生徒たちへの帰属意識高揚を図るための激励会を開催する。 ⑦教員から生徒へ積極的に挨拶をする。 ⑧地域の方との交流やボランティア活動を通じた人格形成を図る。 ⑨教務部を中心に、皆勤奨励する取組を実施する。	①②生徒指導件数が減少するに至ったか、ＳＮＳが原因・関係する生徒間トラブルが減少したか。 ②③学校自己評価アンケートで、基本的生活習慣及び学習に関する内容の達成状況が向上したか。 ④転退学者数は減少に至ったか。 ⑤⑥３年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。 ⑦生徒の挨拶が定着したか。 ⑧人間性豊かな人格形成が図れたか。 ⑨皆勤者数を増やすことができたか。		B		